

# Teaching Japanese as a Foreign Language



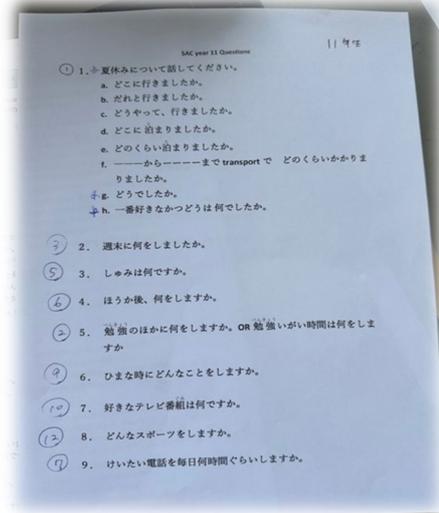
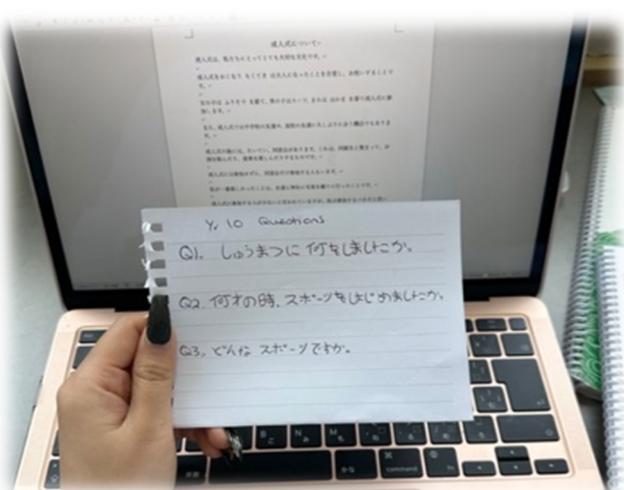
A. M. 英語英文学科 2年次

参加期間：2024年2月16日 ～ 3月10日（3週間）

受入校：（学校名 Bayview Collage）（都市名 Portland）

## I. 教育実習について

私が今回日本語教育のアシスタントとして受け入れてくださった Bayview Collage では、日本と言う小学生から高校生までの生徒が日本語の授業を受けていました。日本語の授業はオーストラリア出身の先生2人と、週に一回日本人の先生がアシスタントという形で行われていました。具体的な授業の内容については、7～8年生は、音楽に乗せて、体のパーツや簡単な単語を日本語で学んだり、日本円の使い方を、実際に店員と生徒の立場になって学んでいたりしていました。12年生は、日本でいう大学受験を控えていたので、それに必要なスピーキングの授業がありました。私は主にスピーキングの授業のアシストをしていました。



生徒にする質問内容は、「今年の日本語の勉強はどうですか。」や「暇な時にどんなことをしますか」などで、日本の英語検定のようにでした。発音の矯正をしたり、生徒の解答の添削をしたりしました。私が今年、20歳を迎える成人式を経験していたこともあり、日本の伝統行事として興味を持たれたので、生徒たちに成人式についてのリスニングもしました。私が授業の中で最も興味深と感じたことは、日本人が自然に染み付いていることについての質問が多く寄せられたことです。例えば、今週中（こんしゅうじゅう）、今週中（こんしゅうちゅう）の違いは何か、と聞かれました。私たち日本人が気づくことがなかったようなポイントに、生徒や現地の先生が疑問を抱いていました。私は初め、なぜ日本の先生が日本語を教えていないのだろうと感じていましたが、実際に日本語を勉強している人たちにしかわからない疑問点や難しいポイントがあるからなのだと気づきました。他にも、こんばんは（こんばんわ）について、二つ目の“は”の発音はなぜ“わ”に変わるのかと質問されたことも鮮明に覚えています。せっかく抱いた疑問に正しく解答できるように、私自身も日本語の勉強に夢中になりました。日本語について、英語で解説する際に、ニュアンスの違いが生じてしまったり、思っているように伝わらなかったり、悔しさもた

# Teaching Japanese as a Foreign Language



くさんありました。自分の英語力をもっと高めたいとより強く思うようになりました。日本語を学ぶことの難しさを知ると同時に、日本語の美しさにも気づくことができて、日本人であることを誇りに思えました。最年長の生徒が18歳と年も近いこともあり、ボーイフレンドの話や、将来の話についてなど、授業外でもたくさんの交流をすることが出来ました。また、私は日本語の授業のみ参加の予定でしたが、科学の授業に参加してみたいという頼みを受け入れてくださり、メルボルンでの課外活動に参加しました。そこでは、生徒たちと一緒にアトラクションに乗ったりして楽しい時間を過ごすことが出来ました。



2時間目と3時間目の間に、Recess という休み時間があり、先生たちでケーキを食べたり、会話を楽しんだりしました。最終日には、マグカップのプレゼントをいただき、日本でも大切に使っています。教育の楽しさや、自分の英語力に気づけた三週間になり、とても充実したものでした。



私は三週間のうち、二つのホームステイ先にお邪魔しました。どちらのホストマザーも Bayview Collage の先生で、日本語教師をされていました。一つ目のホームステイ先では4人の子供達が迎えてくれて、毎日とても賑やかでした。また、オーストラリアの家庭では、一家に一台トランポリンが主流だと聞いて驚きました。子供達と一緒にトランポリンやバスケットボールをして楽しみました。オーストラリアでの食事は本当に美味しいものばかりで、三週間でしっかり太ってしまいました。ホストファミリーはオーストラリアの食事をたくさん出してくださり、食の文化を楽しむことが出来ました。最も印象に残っているのは、家族みんなでピザを一から作ったことです。初めての経験だったので、とても楽しかったです。3時20分に学校が終わり、そのあとは

# Teaching Japanese as a Foreign Language



クラブ活動や近くのビーチに連れて行ってもらいました。1人の時間がほとんどないくらいホストファミリーが予定を詰めてくれていました。また、週末には近くでフェスが開かれており、生徒たちのダンスや屋台を楽しむことが出来ました。ホストファザーがお酒を嗜む趣味を持っていたので、子供達が寝た後に、ホストマザーとホストファザーと一緒にオーストラリアのお酒を楽しみました。夕食の時間に、ホストファミリーの日常会話が聞き取れなくてとても落ち込みましたが、私に質問を投げかけてくれる際にはゆっくり話してくれたり、わかりやすい言い方に変えてくれたりしたことが嬉しかったです。



二つ目のホームステイ先は、ホストファザーとホストマザーのみのお家でした。ホストマザーが参加しているバスケットボールチームに参加させてもらったり、本の感想などを交換し合う、読書クラブにお邪魔させてもらったり、一緒にご飯を作ったりして、とても充実していました。また、家の周りにはたくさんの動物たちが居て、まるで動物園にいるかのようなようでした。私が犬の散歩をしている際に、乗馬をしている人とすれ違ったことは衝撃的でした。ホストマザーの友達が開いたピザパーティーに参加した時に、自分と同年の人たちと話す機会があり、親近感ゆえに沢山話すことが出来ました。英語が十分に出来ない私に、とても親切にしてくださった素敵なホストファミリーに出会えて本当に幸せです。9月に修学旅行で日本に来られるので、日本を十分に満喫できるように今度は私がもてなします！





### Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

このプログラムの中で、自分の英語が伝わらなかったり、会話が理解できなかつたりして落ち込むことが何度もありましたが、それでも英語を使わなければいけない状況に身を置くことが大切だと思います。たった一ヶ月しかないので、失敗を恐れずに、文法が間違っているでも話すことを大切にしてほしいです。オーストラリアに行く前に、私は文法や単語の勉強に重点を置いていましたが、もっとリスニングを重視すべきだと思いました。BCCが出しているポッドキャストを一日一個聞いて耳を鳴らすことを心がけたり、「どんどん話せる瞬間英語作文」でスピーキングの力を高めたりすることをお勧めします。また、空港が厳しいと聞いて、日本のものをお土産に持っていかなかったことを後悔したので、ぜひ持って行ってほしいです。

私はこの留学体験を通して、日本語を英語で教えることの楽しさを知り、日本語教師の副専攻を取ろうと、新たな目標ができました。実際に行かないとわからないことが沢山あるし、必ず何かを得て帰ってくるので一ヶ月間目一杯楽しんでほしいと思います。





氏名 ( M.Y. )

日本語日本文学科

1年次

参加期間：2024年2月16日 ~ 3月16日 (4週間)

受入校： ( 学校名 St. Patrick's College Ballarat ) ( 都市名 Ballarat )

## I. 教育実習について

実習をさせていただいた学校は、私立の男子校で、カトリック系の学校でした。Year 7 ~ Year 12 (日本でいう中学一年生~高校三年生)の学年の授業に参加しました。なかでも、Year 7, 8, 10, 12の授業に多く参加させていただきました。

Year 7やYear 8は、元気な生徒が多く、単純な作業である平仮名やカタカナの書き取りに興味を持って取り組んでもらうことが難しかったです。

また、Year 7やYear 8の生徒は、京都や大阪よりも東京に興味があったのですが、東京に行ったことがなかったので、質問に答えるのが難しかったです。

Year 10やYear 12では、日本語の助詞の使い分けや英語と日本語の文章や言葉の違いなどを教えることが、難しかったです。

しかし、Year 7やYear 8の小テストの丸付けや質問の受け答え、Year 10やYear 12の会話や作文練習を通して、生徒の成長を実感でき、とてもやりがいがありました。

授業の空いている時間には、学校の図書館に行き、生徒がどのような本を読んでいるのか調べたり、他の宗教や音楽といった授業にも生徒と一緒に参加しました。

その他に日本語を教える以外にも、最終週には東京からの修学旅行生が来ていたので、日本語の授業時間を使った交流に私もお手伝いとして参加したり、セントパトリックデーと呼ばれるお祭りみたいな1日があったので、生徒と一緒にドーナツやホットドッグを食べたりしました。

## II. ホストファミリーについて

ホームステイ先の家族は、私を本当の家族のように、温かく受け入れてくれました。

ホストファザーが作る晩ご飯や昼ごはんは美味しかったです。

授業終わりには、犬の散歩によく行きました。ホストマザーとたくさん話すことができ、楽しかったです。また、時間がある時には料理を手伝ったり、

週末には、動物園やマーケットなど様々な場所に連れて行ってもらいました。また、ホストファミリーだけでなく、学校の先生のご家族とショッピングやひまわり畑、映画館などに連れて行ってもらいました。とても、充実したし休みを過ごすことができました。



### Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

オーストラリアは一日で春夏秋冬があるといわれるほどに寒暖差が激しく、乾燥もしています。そのため、私は、風邪をひいてしまいました。持参した風邪薬があったので、大事にはなりませんでしたが、よく使う薬は持参した方がいいと思います。また、体温計を持っていったので、熱がどれくらいか自分でわかることができ安心でした。日本の体温計とオーストラリアのものでは表記される数値が違うので、持参した方がいいと思います。

現地では、お手伝いすることはありませんかと先生や生徒に声をかけること、リセスと呼ばれる小休憩やランチタイムには、スタッフさんや先生方とお話することなど、積極的にコミュニケーションを取ることを意識しました。

私は、英語に不安があったので、プログラム前に国際課の English Chat Room に参加しました。会話に慣れるのにはとても有効ですので、参加するのをおすすめします。

# Teaching Japanese as a Foreign Language



また、プログラムは、英語に関して困るというよりは、日本語の使い方の説明や感覚で使っていることを説明するのに困りました。困るほどではありませんでしたが、文化の違いに戸惑うことも多かったです。日本とは違うところがあると、受け入れる姿勢が大切だと学びました。

日常生活に関しては、英語に強い苦手意識があったとしても、伝えようという意思があれば私の場合はなんとかなりました。

日本語を教えることに興味がある人は、参加することをおすすめします。